

台風・大雨・風水害対策

8月上・中旬

各作物共通

1 事前対策

海岸に接した水田では、台風の通過が満潮時になる場合に、高潮で海水が逆流するおそれがあるので、水門の管理には万全を期する。

2 事後対策

- 1) 海岸近くで海水の浸冠水があった場合、直ちに排水させた後、淡水の掛け流しに努める。また、潮風を受けたものは、速やかに淡水を散布して、塩分を洗い流す。
- 2) 塩害対策については別ファイルの「農地への海水の流入が農作物に及ぼす影響とその対策」を参照する。

水 稲

1 事前対策

台風通過時には、倒伏防止と水分蒸散による稲体水分の補給のため深水に保つ。

2 台風通過後の対策

- 1) 倒伏または冠水したほ場では、直ちに排水する。濁水冠水の場合、穂や葉に泥土が付着したまま乾燥すると、呼吸作用が妨げられ、登熟に悪影響をおよぼすので、清水をかけ流しするなど付着を少なくするよう留意する。
- 2) 強い風雨によって茎葉に損傷を受けた稲は、以後一時的に蒸散作用が旺盛となる。早期栽培は登熟最盛期にあたり、熱乾風（フェーン現象）によって青枯れが発生するおそれがあるので、台風通過後も土壌水分の保持に努める。
- 3) 潮風害を受けたものは、24時間以内に淡水を散布して洗い流す。
- 4) 病害虫の発生に注意し、特にいもち病が発生した場合には、早急に薬剤散布を行う。

大 豆

1 事前対策

- 1) 中耕培土を行っておく。これにより強風による倒伏や折損の防止、さらに排水を促し、滞水による根腐れが防止できる。
- 2) 迅速に排水するため、排水路の点検、整備、清掃をしておく。

2 台風通過後の対策

中耕培土ができていないほ地では、土壌が乾き次第、株を立て直すように土寄せを行う。

茶

1 事前対策

- 1) 茶は滞水すると根腐れが生じやすいので、迅速な排水ができるよう、排水路の点検、整備をしておく。
- 2) 三番茶芽は、ほとんど出開きの時期を迎えており、今後硬化時期に入っていくが、炭そ病等の病害予防に努める。

2 台風通過後の対策

- 1) 幼木園では、強風により株元周辺がぐらついて穴が空いたり、倒伏した株が発生した場合は、台風通過後できるだけ早く株元周辺を踏み固めるとともに、倒伏した株を起こす。
- 2) 台風通過後に、気温の上昇により干ばつが予想される場合は、かん水を実施する。
- 3) 三番茶芽、秋芽は、翌年一番茶の母葉として重要であることから、これから伸長してくる秋芽に対して病害虫の防除を徹底する。

野 菜

1 事前対策

- 1) アスパラガス、ミニトマト、イチゴ苗床等の施設野菜のハウスはビニールを下げ、ハウスバンドの

締め直し(特に、妻面近くのバンド)等により補強する。

- 2) バンドレスのビニルハウスにおいても展張用補助バンドを用い、バタツキ防止と補強を行う。
 - 3) 露地野菜のうちナス、ピーマン、キュウリ等は支柱を補強するとともに、防風ネットを設置する。青ネギ等の軟弱野菜では、ほ場周りに防風ネットを設置する。栽培面積の大きいほ場では数畝毎に防風ネットを設置すると防風効果が高い。
 - 4) 出荷できるもの(Sサイズを含む)は、できるだけ収穫し、台風通過後のキズ等による下級品、出荷できないものの減少と着果負担軽減に努める。
 - 5) ほ場内の溝、施設周りの排水溝を点検、整備し、雨水の排水に努める。
 - 6) 露地野菜を予定しているほ場では、降雨前のほ場全体の耕うんはせず(耕うんする土壤に水を含み一層乾きにくくなる)、排水溝を設置して(約5mおきの溝、ほ場周りの溝、落とし口つなぐの溝等)積極的な排水対策を行う。ただし、作業機で練らないように注意する。落とし口周辺だけでも溝を掘ると排水しやすくなる。
- 2 台風通過後の対策
- 1) 溝に水が長時間たまると根腐れが発生しやすくなるので、できるだけ早く溝にたまった水を排水する。
 - 2) 施設野菜(アスパラガス、ミニトマト、イチゴ等)は、急激な根の水分変化に株が対応できないため、台風通過後、極端な萎れが発生する。このため通過後、速やかに施設内の温度が高温にならないようサイドや谷を開放し(風がある場合は風上は少し、風下は全開)、適正なかん水、遮光ネットの被覆等を行う。施設開放が遅れ、ハウス内が高温になっている場合は、一度に開放しない。この状態で開放すると、生長点や葉から急激な蒸散がおこり、葉や芯に焼けが発生しやすくなる。このような障害の回避対策として、ハウス内湿度を上げるためかん水を行ったり、動噴等で水を噴霧した後、風下サイドから徐々に開放する。
 - 3) 露地野菜は茎葉に付着した泥を洗い流す。
 - 4) 露地野菜は草勢回復のために、早めに被害果等の除去や収穫により、着果負担を軽減し、整枝、誘引、支柱直しを行い、葉面散布剤を散布する。茎葉の傷口から病害が発生するので早期に殺菌剤を用いて防除する。
 - 5) 被害拡大防止のため、早期に病葉や病株を除去し、ほ場外へ搬出することが重要である。そして、茎葉の傷口から病害が発生するので早期に防除暦、防除指針に従い、適期防除に努める。降雨後は、葉や芯が軟らかく、葉害が発生しやすいので、基準濃度の範囲の薄い濃度(例:2,000~3,000倍の場合、3,000倍)で散布する等、注意して薬剤散布を行う。
 - 6) 露地キュウリはべと病、炭疽病、疫病等、アスパラガスは褐斑病、イチゴ苗床は炭疽病、萎黄病、疫病等、青ネギはべと病、白色疫病等が発生しやすいので防除暦、防除指針に従い、適期防除に努める。
 - 7) 露地野菜を予定しているほ場では、排水溝を設置して、ほ場の乾燥に努める。ただし、作業機で練らないように注意する。ほ場に入りにくい場合は、落とし口周辺だけでも溝を掘ると排水しやすくなる。

果 樹・オリーブ

1 事前対策

- 1) ブドウ、モモ、ナシなどで成熟期に達している果実は事前に収穫する。
- 2) 棚や防風ネット、ハウスの補強を事前に行う。
- 3) 迅速な排水を図るため、排水路の点検、整備、清掃をしておく。

2 台風通過後の対策

- 1) 枝が損傷した場合は、裂けた枝は切り直し、保護剤を塗布する。
落葉が激しい場合は、枝幹部に白塗剤を塗布する。
- 2) 潮風を受けた場合は速やかに(6時間以内)樹冠散水を行い、塩分を洗い流す。
- 3) 下記の病害が発生しやすくなるので、必要に応じて防除を行う。
柑橘類……………黒点病、かいよう病(中晩柑)
モ モ……………灰星病、せん孔細菌病
カ キ……………炭疽病
ブドウ……………べと病
キウイフルーツ…果実軟腐病

オリーブ……………炭疽病

※ 防除はいずれも、農薬のラベルに記載されている使用方法を遵守すること。

花 き

1 事前対策

- 1) 露地栽培では、ほ場の周りに排水溝を掘り、余剰水を排水する。収穫を控えたヒマワリ、小ギク等は草丈も高く倒れやすくなっているものもあるので、支柱の補強を行う。
- 2) 施設栽培では、ハウスの周りに排水溝を設け、水の浸入を防ぐ。
- 3) ハウスやほ場の周りに防風ネットを設置する。また、フラワーネットを早めに張り、株の倒伏を防止する。
- 4) ビニールハウス等の施設栽培では、ハウスを閉め、強風の吹き込みを防ぐ。また、ハウスバンドの締め直しを行い、ビニールのバタツキによる破損を防止する。

2 台風通過後の対策

- 1) 施設内の温度が高温にならないよう、通過後は速やかにサイドや谷を開放し（風がある場合は風上を少し、風下は全開）、適正なかん水、遮光ネットの被覆等を行う。
- 2) 倒伏した茎は風が収まり次第、できるだけ早く起こし、殺菌剤の散布を行い、茎曲がりの発生と病気の蔓延を防止する。
- 3) 茎葉に付着した土は、速やかに洗い落とす。
- 4) 滞水すると、根の活性が低下し、養分吸収が悪くなるので、1000倍程度の液肥の葉面散布を2～3回実施し、生育の促進に努める。

畜 産

1 事前対策

- 1) 畜舎や堆肥舎は、強い風雨に対処できるよう必要箇所の補修、補強を行うとともに、雨水の速やかな排出のため、周辺排水路等の点検、整備をしておく。
- 2) 搾乳施設等については、停電時の対応策として発電機の点検等を行う。
- 3) 飼料畑は、雨水の早期排水ができるように排水路等の点検と整備を実施する。

2 台風通過後の対策

- 1) 風雨により被害を受けた畜舎等は、速やかに洗浄と消毒を実施するとともに、敷料を交換して舎内の乾燥を促進する。飼料に雨水が混入した場合は、腐敗やカビの発生が懸念されるので、給与時には十分注意する。
- 2) へい死した家畜については、最寄りの家畜保健衛生所および農業共済組合と連携して適切な処理を行う。
- 3) 倒伏等により生育の回復が見込めない飼料作物は、早期に刈り取ってサイレージ等に調製し、粗飼料を確保する。